

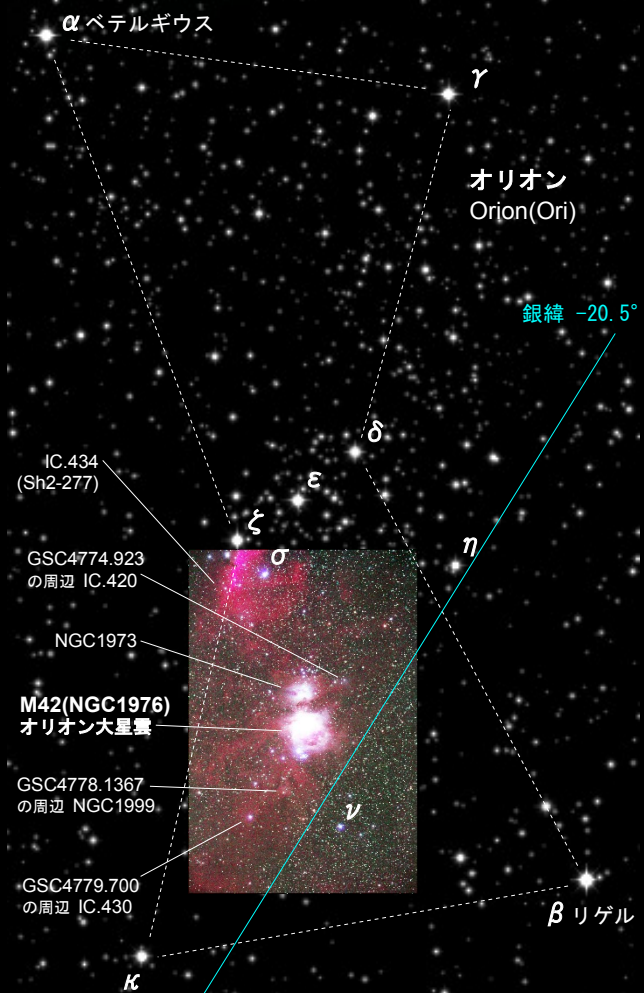


M42 (オリオン大星雲)を中央に入れて 200mm 望遠で撮影した画像です。(APS-C では 35mm サイズ換算で 300mm 程度の望遠になります)画像処理を進めていくうちに、オリオン大星雲の周辺の広い範囲に「花びら」の様に広がる赤い淡い星雲が浮かび上がってきたので、これを強調処理してみました。オリオン大星雲や近隣の星雲については良く語られますので、今回は「これ」をレンズのブライト ネビュラ カタログ等で、同定しようかとも思いましたが「一つ一つ」の星雲に分離するのは無意味なほど繋がっているのを止めました。強いて言うならば、GSC4779.700 周辺の明るい部分を IC.430、そして GSC4778.1367 周辺の明るい部分を NGC1999 としている様です。感覚的にはバーナードループ (Sh2-276) の内側とでも言った感じに見えます。

画像を見ていて気付く事は右下に斜めにガスの境界がある点です。これは丁度、銀緯 -20.5° のラインと一致する様です。(右の星図にラインを入れてみました)ラインより低銀緯にガスが広がっており、高銀緯ではガスが少なく、星が沢山見えています。左上端に「ポチッ」と写っている有名な暗黒星雲「馬頭星雲」のバックとなっている IC.434 は強調画像で見ると σ Ori を中心とした円形をしています、お馴染みのガスの濃い三角の部分は低銀緯側である事がわかります。(バーナードループも低銀緯側を向いています)この様にガスの構造を「銀河座標」で見ると、興味深いです。

こんな真っ赤な領域ですが、オリオン大星雲の少し北西(右上)の GSC4774.923 の周辺に、青く滲んだ反射星雲 IC.420 が写っています。(見落としそうです)

この画像を撮影した 2008/11/29 の天城高原は宵のうち結構な雨が降って、その後、晴れはしましたが、暴力的な強風に襲われ、オートガイダーを使わない眼視でのガイドですら星が追えているのかどうかかわからない状態でしたが、小林氏が極軸を追い込んでくれました。P-2Z の様な軽量級の赤道儀でも暴風の影響は軽微だったようです。そんな天体撮影リスタート 2 回目の夜でした。(片山 徹)



上の星図は ステラナビゲータ 8 (AstroArts) から出力した画像を編集して作成

撮影日時：2008.11.29 23:50~24:18 / 露出：180sec×8枚合成 / 撮影者：小林+片山 / 撮影地：静岡県 天城高原
 画像処理&編集：片山 / カメラ：SE0-COOLED X2(LT) ISO800 / 赤道儀：タカハシ P-2Z 自動ガイド
 レンズ：PENTAX FA* 200mm F2.8 (F4) / 画像処理ソフト：StellarImage Ver.6 + Photoshop5.0 (ノートリミング)
 編集ソフト：OpenOffice.org 3 / 処理PC：SONY VAIO VGN-NS50B/L (インテル Core2 Duo P8400 2.26GHz メモリ4GB)